

WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS

2014 REPORT 8 (7/24)

大会2日目、この日は昨日行われなかった5種目の予選が行われた。

一番早くホテルを出たのはBLW1xの納田選手(関西電力小浜)とコーチ・スタッフ5名だった。昨夜の雷雨が晴れたものの会場内はぬかるみが予想されたため対応する必要があった。

納田選手(関西電力小浜)は落ち着いた様子で計量・アップを済ませ水上へ。本人は緊張していたようであるが、積極的なレース運びを行うことになった。

9:51 BLW1x予選

定刻通りにスタート。スタートから積極的に仕掛け昨年のチャンピオンのギリシャの選手を抑えてトップに立つ。実況放送でも驚きの様子で「JAPAN」「MAKI NODA」が連呼されていた。500mを0.88秒差でトップで通過する。第2クォーターに入り他の3艇は遅れ始め、完全に昨年のチャンピオンとのマッチレースになった。1000mを並ぶようにして通過。100分の6秒差でトップを譲るが、勝負は全く譲っていない。第3クォーターに入り昨年のチャンピオンが徐々に意地を見せはじめる。1500mでは3.32秒差をつけられるも射程圏内にはしっかりとどめている。

他のクルーは全く入る余地のないレースとなりゴールはトップギリシャと4.66秒差の2位でゴール。2位ではあるものの3位以下を約9秒引き離しての予選通過となった。



予選で力漕をみせるBLW1X 納田選手(関西電力小浜)

BLW2xには5月に行われたアジアカップで優勝した富田選手(明治大)と川本選手(日本体育大)が登場。これまで二人で時間を調整してクルーを仕上げてきただけに期待がかかる。二人とも平常心を保ちながら計量・アップを済ませスタート地点に向かった。

11:15 BLW2x予選

予定より数分遅れてのスタート。スタートから仕掛けるものの500mをトップと5.29秒の6位で通過。第2クォーターに入り隣のレーンのロシアをかわすものの、トップとは11.16秒差で1000mを通過する苦しい展開。1500mの通過ではトップとは17.01秒差。予選通過ラインのアメリカとの差は14秒あまり。苦しい展開が続くものの二人はあきらめずラストクォーターで必死のスパートを仕掛ける。3位以下のクルーとの差を縮めゴールをするも5位。残念ながら敗者復活へ回ることになったが、明日以降につながる良いパフォーマンスをレース終盤に出すことができ、明日のレースに期待を持たせてくれた。



出艇前に梶田コーチとミーティングをするBLW2xクルー

写真左より、梶田コーチ、富田選手(明治大)、川本選手(日本体育大)



レース後半になるにつれ切れ味を出してきたBLW2Xクルー

B川本選手(日本体育大)、
S富田選手(明治大)

BLM2xの濱上選手(関西電力美浜)と山口選手(日本大)は、水域が異なるため集中した練習を重ね今大会に挑んできた。本番でも普段の力がしっかり発揮できれば上位進出も十分に狙えるだろう。

11:22 BLM2x予選

スタートからチェコが飛び出しノルウェーがほぼ並んでレースをリードする展開となった。日本は必死に食らいきトップから3.64秒の5位で500mを通過。勝負はまだわからない。

第2クォーターに入りわずかにスピードが鈍ったところで他艇に多少遅れをとり、1000mをトップから8.64秒差の5位。また予選通過ラインの2位に浮上したニュージーランドとは7.6秒差。少々苦しくなってきた。第3クォーターに入るころにはトップ3クルーと後続の差が大きく開いてきたが、二人はあきらめずに4位パラグアイを追って漕ぎ続ける。1500mはトップと13.88秒差の5位。ラストクォーターも状況を大きく変えることはできなかったが、3位ノルウェーとの差を縮めた。終盤踏ん張ることで次のレースにつなげた内容となった。



出艇後ウォームアップに向かう
BLM2x 手前:山口選手(日本大)、
奥:濱上選手(関西電力美浜)



1800m付近でスパートに入る
BLM2x 左より 濱上選手(関西電力美浜)、山口選手(日本大)

選考段階から素晴らしいスピードを表現してきた2ペアからなるクルーだけに、期待もかかる。オープニングセレモニーで日本の旗手を務めた平木選手(一橋大)をはじめ中村選手(一橋大)、奈良選手(日本大)、佐藤選手(日本大)は計量も一発でクリアし水上へ繰り出していった。

11:50 BLM4-予選

ほぼ定刻通りのスタート。スタートから地元イタリア、イギリス、フランス、カナダ、日本が激しくトップ争いを繰り広げる。500mの通過は5位ながらトップとは2.77秒差。勝負はまだわからない。

第2クォーターに入りトップイタリアと2位イギリスが抜け出し始める。日本はフランス、カナダと激しいデッドヒートを繰り広げ1000mをトップと5.3秒差の4位で通過する。第3クォーターでもフランス、カナダとの競り合いから抜け出すことは難しく、両クルーの間の4位で1500mを通過。第4クォーターで必死に追い上げ3位フランスとの差を僅かに縮めるがトップとは10.68秒差の4位でゴール。

明日の敗者復活に回ることになったが、レース中に明らかになった改善点をクリアできれば、Aファイナルも十分狙えることが確認できた。



レースに向け梶田コーチと戦略を練るBLM4-クルー
左より佐藤選手(日本大)、平木選手(一橋大)、梶田コーチ、中村選手(一橋大)、奈良選手(日本大)



1800m付近でスパートに入る
BLM4- 左より 佐藤選手(日本大)、平木選手(一橋大)、中村選手(一橋大)、奈良選手

BW1xに出場する榊原選手(早稲田大)は言わずと知れたロンドン五輪代表選手であるためか、会場でも数名の役員から「彼女のことは知っている」と話しかけられることがあった。他のクルーの対応でスタッフが手薄な中でも落ち着いてアップを済ませ、明るい表情で水上へ。日本のオープンウエイトの夢をのせての挑戦が始まった。

12:46 BW1x予選

スタートからハンガリーの選手が飛び出しセルビア、アメリカ、ベラルーシ、日本が追いかける展開になった。ハンガリーはぐいぐいとスピードに乗り500mをトップで通過。日本は5.48秒差の5位で通過するもしっかりレースについて行っている。第2クォーターで粘りに粘るものの僅かに離されながら1000mも5位で通過。第3クォーターに入り集中力の切れない榊原選手(早稲田大)はセルビア、ベラルーシとの差を詰めデッドヒートに持込む。1500mの通過はトップと10秒以上開くものの、世界のオープンウエイトの中でしっかり存在感を示している。迫力のある3位争いを繰り広げるものの逆転は難しく5位でゴール。残念ながら敗者復活にまわることになったが、世界のオープンウエイトの中でしっかり戦える感触を得ることができた。



力強く水をとらえスタート地点に向かうBW1x 榊原選手(早稲田大)



BW1x
ベラルーシとセルビアとデッドヒートを繰り広げる榊原選手(早稲田大)

明日はBLM1xが準決勝A/Bへのクォーターファイナル、BLM2-は決勝進出をかけた準決勝A/B。BLW2x、BLM2x、BLM4-、BW1xの敗者復活と後のない戦いが続きますが、引き続き選手・スタッフ一丸となって戦って行きますので応援よろしくお願い致します。